

注 意 報

長崎県病害虫防除所長

令和元年度病害虫発生予察 注意報第9号

たまねぎ（早生・中晩生） べと病

1. 発生地域（対象地域） 県下全域

2. 発生程度 多

3. 注意報発令の根拠

(1) 2月5日に実施した定点調査（諫早市：20筆）の結果、発病株率0.17%（前年同時期0.13%）、発生圃場率60.0%（同 45.0%）であった。なお、発生圃場は早生および中生の作型であった。また、ほとんどの発病株で胞子の形成が確認された。

(2) 2月4～5日に実施した臨機調査（諫早市と離島地域を除く県下全域：27筆）の結果、発病株率0.05%、発生圃場率22.2%であり、平年並びに多発した平成28年の3月前期並の発生状況であった。なお、発生圃場は早生および中晩生の作型であり、超極早生での発生は認めなかった。

【参考】巡回調査結果

		発病株率	発生圃場率
平年値	2月前期	0.01%	3.3%
	3月前期	0.11%	15.0%
平成28年 (多発年)	2月前期	発生を認めない	発生を認めない
	3月前期	0.06%	20.0%

(3) 気象予報（福岡管区气象台、2月6日発表）によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量も平年並または多い見込みであり、本病の感染に好適な条件（気温15℃前後で高湿度状態（曇雨天日）が1～2日続く）が多く出現する可能性が高い。

4. 防除対策

(1) 本病は葉身上に形成された分生胞子によって感染が拡大するため、圃場のこまめな見回りをを行い、一次伝染株の早期発見に努め、発見したら早急に抜き取る。抜き取った株は圃場内に放置せず、胞子が周囲に飛散しないようにその場で直ちにビニール袋等に入れ圃場外に持ち出し、市町に処分方法を確認して焼却施設に搬出するなど適切に処分する。

(2) 平年より発生が早まっているため、防除時期を早めて下記の例を参考に薬剤散布を行う。薬剤散布にあたっては天候（降水）や薬剤の残効性を考慮しながら7～10日間隔の防除を徹底する。なお、本病は分生胞子が風によって周辺に飛散するため、地域一体となって防除に努める。

【例】当面の防除スケジュール

2月		3月
中旬	下旬	上旬
フロリサイトOS ジンドクフロアブルまたは ジンドクフロアブル	ジンドクイセン水和剤	ジンドクイセン水和剤

(3) 圃場の排水対策を行う（明渠の切り直し等）。



図1 早生圃場における一次伝染株



図2 葉身に分生胞子を形成



図3 晩生圃場における一次伝染株



図4 葉身に分生胞子を形成

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

